

国際シンポジウム
International Symposium

アジアの「知性発掘」ソフィア・ミッション20年

The Excavation of Wisdom in Asia-20 Years of the Sophia Mission

—カンボジア人学位取得者からのメッセージ—
—Messages from our Cambodian Graduates—

2011年3月12日(土)

13:30~18:00

Date: March 12 (Sat), 2011



上智大学2号館17階国際会議場

Venue: Sophia University Building No.2 Room 1702

◆ 講演者 ◆

オム・ラヴィ教授

(プノンペン大学副学長)

リ・ヴァンナ教授

(シハヌーク・イオン博物館館長、王立芸術大学教授)

エック・ブンタ教授

(カンボジア文化・芸術政策局長、王立芸術大学教授)

日本語による講演、入場無料

主催: 上智大学アジア人材養成研究センター

Host: Sophia Asia Center for Research and Human Development

〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1 Tel.03-3238-4136 Fax.03-3238-4138

アジアの「知性発掘」ソフィア・ミッション20年 ——カンボジア人学位取得者からのメッセージ——

上智大学は間もなく100年、大学の仕事は続きます。創立時から国際大学です。まだ国交が開かれていない1991年からカンボジアにおいてソフィア・ミッションが開始されました。ミッションはプノンペンの芸術大学における集中講義と、シェムリアップのアンコール遺跡内における現場研修です。

プノンペンでの集中講義では学生約400名が出席し、熱気あふれる質疑応答が続きました。その時カンボジアは内戦中でした。アンコール遺跡での現場実習場所はバンテアイ・クデイ遺跡。こうした人材養成は今年度で20年の節目を迎え、現在も続いております。

アジアの「知性発掘」のため、優秀なカンボジア人学生を上智大学大学院へ進学させ、学位取得のプログラムへと発展しました。そして2002年3月にカンボジア人として博士号取得第1号が誕生しました。これまでにカンボジア人博士学位取得者は6名、修士学位は13名であります。彼らは熱帯アジアの文化遺産分野において、世界を牽引するリーダーとなりました。

こうしたカンボジア人学位取得者の中から活躍中の3名の教授を招聘し、日本留学時代を振り返り、世界のリーダーとしての活動を語ってもらいたいと思います。上智大学のアジアの「知性発掘」プログラムについてご高見をいただくと同時に、世界に並び立つ上智大学のグローバル化についても言及いただきます。

ご多忙のことと存じますが、ぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。

石澤良昭(上智大学学長)

◆プログラム◆

挨拶

石澤良昭(上智大学学長)

講演

1.「カンボジア文学論を英語で書く—私の苦勞と希望—」

オム・ラヴィ(Oum Ravy)教授(プノンペン大学副学長)

2.「カンボジア考古学の成果を世界へ発信—サムロンセン遺跡の発掘物語—」

リ・ヴァンナ(Ly Vanna)教授(シハヌーク・イオン博物館館長、王立芸術大学教授)

3.「カンボジア文化政策とコンセプトの構築—グローバル化をにらんだ文化政策とは—」

エック・ブンタ(Ek Buntha)教授(カンボジア文化・芸術政策局長、王立芸術大学教授)

日時:2011年3月12日(土)午後1時30分~6時

会場:上智大学2号館17階国際会議場(1702室)

交通案内:JR・地下鉄「四ツ谷駅」下車 徒歩3分/使用言語:日本語/入場無料

主催:上智大学アジア人材養成研究センター

〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1 Tel.03-3238-4136 Fax.03-3238-4138